授業科目名	カウンセリングⅡ	単位数	2単位
担当教員名	平雅夫	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）
DP5.共生社会創造の目的のために、様々な分野について絶えず学び続ける態度を持つことができる（継続力）

授業のテーマ及び到達目標

（１）カウンセリング三大理論の特徴と違いについて理解を深める
（２）認知行動療法について理解を深める
（３）クライエント中心療法、交流分析学等について理解を深める

授業の概要

近年注目されている「認知行動療法」は「行動療法」「精神分析学」が統合した体系でもある。それは、すべての理論が完全ではないことを示している。こうしたそれぞれの理論の限界を知ることは、「こころ」に関わる者として必要な態度である。テキストでは、三大理論の一つである行動心理学、精神分析学より派生してきた認知行動療法を中心に学修し、スクーリングでは、クライエント中心療法や交流分析学などを中心に学ぶ。

授業計画

第１回　テキスト第１、２章　カウンセリングとは
第２回　テキスト第３章の１　クライエント中心療法
第３回　テキスト第３章の２～１２　フォーカシングとゲシュタルト療法
第４回　テキスト第４、５章　精神分析学と精神力動論
第５回　テキスト第６章の１　行動療法
第６回　テキスト第６章の２　認知行動療法
第７回　テキスト第６章の３　第三世代認知行動療法
第８回　テキスト第７章　システム論
第９回　テキスト第８章　交流分析等
第10回　参考書『認知行動療法入門』第２部　認知行動療法の基本技法
第11回　参考書『認知行動療法入門』第３部　ケースフォーミュレーション
第12回　参考書『認知行動療法入門』第４部　ACT
第13回　参考書『エリック・バーンの交流分析』第２章　構造分析
第14回　参考書『エリック・バーンの交流分析』第２章　交流（やりとり）分析
第15回　参考書『エリック・バーンの交流分析』第２章　ゲーム分析
科目修得試験

スクーリングでの学修

カウンセリングの主たる理論であるクライエント中心療法、交流分析学などの諸理論を学びながら「発達障害」等の社会的な問題を検討する。あわせて「カウンセリングⅠ」「臨床心理学」を受講するとよい。

テキスト

諸富祥彦、（2022）、『カウンセリングの理論（上）』、誠信書房 ISBN　978-4-414-40378-7
諸富祥彦、（2022）、『カウンセリングの理論（下）』、誠信書房 ISBN　978-4-414-40379-4

参考書・参考資料等

下山晴彦・佐藤隆夫・北郷一夫監修、下山晴彦・石丸径一郎編著、（2020）、『公認心理師スタンダードテキストシリーズ臨床心理学概論』ミネルヴァ書房
ISBN　978-4-623-08613-9

熊野宏昭　鈴木伸一　下山晴彦、（2017）、臨床心理フロンティアシリーズ『認知行動療法入門』、講談社
ISBN　978-4-06-154811-4

イアン・スチュアート、（2015）、『エリック・バーンの交流分析』、実業之日本社
ISBN　978-4-45570-9

学生に対する評価

スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、科目修得試験（50%）